

## 令和7年度を振り返って

倉敷教育センター 館長 村中 千春

3月を迎え、ライフパーク倉敷の河津桜も満開となりました。ふれあい教室では卒業を祝う式を実施し、子どもたちの成長に大きな喜びを感じています。

令和7年度も倉敷教育センターを象徴するマスコットキャラクター「SAMY (サミー)」と共に、4つの事業の充実をめざしてきました。

S…信頼  
A…愛情  
M…未来  
Y…夢  
「SAMY  
(サミー)」です!



1つ目の事業は、「教職員研修」です。今年度は25の研修を実施し、延べ4,713名の方の受講がありました。法定研修につきましては、岡山県教員等育成指標を踏まえながら、初任者研修と中堅教諭資質向上研修を実施しています。子どものみならず、教師の学びにも求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、研修の在り方を見直しているところです。例えば、研修記録シートでは、研修開始時に、その日の内容に関して受講者自身の「問い」を記述する時間を設定したり、研修後の記述内容を分析し、研修だより等によるフィードバックの仕方を工夫したりしました。また、対話の場面では、受講者の思考や気付きが深まるよう、協働性を高めたり、協議の足場を整えたりすることを意識しました。これからも、教師の学びを支える研修が実施できますよう取り組んでまいります。

岡山県では、昨年9月より、全国教員研修プラットフォーム「Plant」の運用を開始しています。研修の検索・申込み、オンデマンド学習、学びの履歴の記録等、専門性を高めたり、キャリアを振り返ったりする際にも活用できるツールです。倉敷市でも、新システムにスムーズに移行できますよう努めてまいります。

2つ目の事業は、不登校の小・中学生を対象とした「倉敷ふれあい教室」です。市内5つの教室で、5つのつくり（居場所づくり・人間関係づくり・生活習慣づくり・学習習慣づくり・目標づくり）をめざした支援を行っています。令和6年度からは、対面での活動に加えて、オンラインによる個別の活動をスタートしました。保護者の方から「共通の話題ができ、家族の会話が増えた。」「学校行事などに参加するきっかけになった。」というお声をいただいています。来年度も、子どもたちの学校復帰や社会的自立に向けた次への一歩を支えていきたいと思っております。

3つ目の事業は、「教育相談」です。電話・面談にて、教育指導員や臨床心理士による相談を行っています。最近是不登校に関する相談件数が多くなり、学校や関係機関等との連携の重要性を改めて感じているところです。また、特別支援教育がテーマの座談会「とらいあんぐる」や不登校がテーマの座談会「かけはし」につきましては、気持ちを打ち明け、語り合う場となり、少しでも保護者の方の元気につながるよう実施してきました。

4つ目の事業は、「教育情報の収集と提供」です。研究集録、教育雑誌、書籍、教科書などを展示し、一部貸出しも行っています。みなさまの「学びたい」というニーズに応えることができればと思っております。

最後になりましたが、1年間、倉敷教育センターの諸事業に御協力いただき、心から感謝申し上げます。今後とも、子どもたち・学校園の先生方・保護者の方の「応援団」となれるよう努力してまいりますので、変わらぬ御理解と御支援をよろしくお願いいたします。

# ☆ 令和7年度 全研修講座が終了しました ☆

中堅教諭資質向上研修 最終回

## 「特定課題研究発表会」



特定課題研究発表会では、中堅研受講者がそれぞれのテーマで1年間研究実践を重ねた成果を発表しました。発表内容は、教科指導、学級経営、特別支援教育、生徒指導、ICT活用等、多岐にわたっていますが、どの発表にも「子どもたちにこんな力を付けたい」という熱い思いがありました。異校種の取組や他教科の実践を知ることも新たな学びとなり、中堅研の仲間がそれぞれの分野で頑張る姿は大きな刺激となったようです。

また、3年目研修の受講者は、自らの課題や研究に資するようにと発表会に参加し、熱心に質問をしていました。校長先生や来年度中堅研を受講予定の先生も聴講しました。

中堅研受講者には、この研修をステップアップの機会とし、今後より一層の自己研さんと、ミドルリーダーとしての飛躍が期待されています。

### 【中堅研受講者の研修記録シートから】

- ・ 全ての発表で学びがあり、先生方の経験を分けていただいた貴重な時間でした。その中でも、特別支援学級を対象とした発表では、明日からすぐに生かせそうな実践が多くありました。子どもに委ねるという視点も大切にしていきたいです。
- ・ どの先生方も研究テーマに合わせて学級の子もたちとしっかり向き合い、よりよい学級経営を実践されており、中堅研を受講した同志として、大きな刺激を受けました。
- ・ 発表を聞いていく中で、子どもたちの思いが大切だと改めて感じたので、今後も授業や日々の生活を通して、子どもの思いに寄り添い、向き合えるような教師でありたいと思いました。

### 【参加された校長先生から】

会場に入った瞬間から、凛とした雰囲気にもまれており、背筋がすっと伸びたような感じになりました。本校の教諭に加え、どの先生も自信に満ち溢れた態度で発表に臨まれており、感動しました。倉敷の学校を近い将来、主軸となって引っ張っていかれる中堅の先生方が、こんなにも生き生きとされていると思うと、うれしい気持ちでいっぱいになりました。

3年目研修 最終回

## 実践発表「学級経営・教科指導」

3年目研修の最終回は、各自がテーマを決めて取り組んできた教科指導または学級経営に関する課題研究の実践発表及び協議でした。初任期教員として集大成の研修となりました。

### 【受講者のアンケートから】

- ・ 自分の課題に対する意見や悩んでいる部分へのアドバイスから、たくさん学ぶことができました。「明日から実践できることを得ること」をめあてにも書きましたが、今日の学びの中からできることを少しずつ取り組んでいきたいと思えます。様々な経験も経ている3年目の今だからこそ、大切な視点を獲得することができました。
- ・ たくさんの先生方の実践を聞いて、自分も「もっと頑張らねば！」と気持ちが引き締まりました。「教師主体ではなく子ども主体で進む授業ができるようになる」、「学級全員の自己肯定感が高まるような学級経営をする」という自分の課題が明確になりました。この課題に対する手立てやその成果を中堅研で発表できるように、日々努力していきたいです。



### 令和7年度受講者数

(延べ人数) 合計 4,713 名

1 初任者研修	1,291 名	14 幼児教育研修	327 名
2 2年目研修	230 名	15 学校事務職員研修	106 名
3 3年目研修	269 名	16 学校事務職員スキルアップ研修	170 名
4 中堅教諭資質向上研修	754 名	17 新規採用学校栄養職員研修	1 名
5 16年目研修	146 名	18 教科教育基礎研修	113 名
6 新任教務主任研修	66 名	19 教育のユニバーサルデザイン研修	193 名
7 新任特別支援学級担当教員研修	183 名	20 特別支援教育スキルアップ研修	111 名
8 新任特別支援教育コーディネーター研修	148 名	21 発達検査研修	48 名
9 通級指導教室担当教員研修	80 名	22 学校カウンセリング研修	39 名
10 生活支援員研修	28 名	23 子どもの発達を考える会	135 名
11 新任講師研修	60 名	24 生徒指導研修	106 名
12 2年目・3年目講師研修	58 名	25 学校・家庭・地域の連携促進事業関係者等研修	27 名
13 幼稚園助教諭研修	24 名		

## 初任者研修最終回 講義・演習

### 「教師に求めたい『教育の心』

～心理学の知見から、教えることと学ぶことを考える～

岡山大学 教育推進機構 助教 内田 奈緒



初任者研修最終回では、「教えることと学ぶことに焦点を当て、具体的な事例をもとに『教育の心』について考えるとともに、教員人生を歩んでいくことへの意欲を高める」ことを目的に、講義・演習を実施しました。講師の内田先生は東京大学大学院において、市川伸一先生や植阪友理先生のもとで学ばれ、学習者の深い理解を促す学び方やその指導に関するテーマを中心に研究を行っていらっしゃいます。効果的な学び方や授業での学びを生かす方法、学び方を自己調整することなどについて、考える機会となりました。

#### 【研修のキーワード】

自ら学ぶ力、メタ認知  
お手本を見せる、深い理解  
自己調整学習、学習観  
足場かけ、意味理解

### <受講者の振り返りより>

- ・ 今まで行ってきた実践の中にも、メタ認知につながるものがあったことに気がきました。また、学び方については、やり方に加えて重要性を伝えるようにしたり、メタ認知ができている子どものノートに良いポイントを加えて掲示したりするなど、すぐにできそうなことから始めていきたいです。子どもの様子や振り返りをもとに、自分自身の授業も振り返ることができるようにしていきたいです。
- ・ 特に印象に残っている学びは、「深い理解」についてです。教師の発問一つで子どもたちは「なぜ（理由・原理）」を考えるようになり、学ぶ方向性が大きく変化することが分かりました。根拠や意味、つながりを意識し、「そもそもセンサー」を働かせて、概念の理解を深めていくことを大切にしていきたいです。
- ・ 「どんな振り返りを子どもが書くと、深い理解をしていると言えるのか」という視点が、評価や授業改善につながると分かりました。「分からない」こと、「難しかった」ことも遠慮なく書いて振り返ることができるような学級の雰囲気づくりも大切だと感じました。また、授業動画の中で出てきた、理解深化の時間は貴重だと思いました。練習問題や、より難解な問題をみんなで解いたり、全体の前で発表したり聞いたりすることで、身に付けた力を確かなものにする事ができると思ったので、取り入れていきたいです。
- ・ 1年間、授業をする中で、子どもたちが振り返りに「よく分かった」と書いていたり、授業内での練習問題はよくできていたりしても、テストでは点が取れないということが何度もありました。この研修を通して、それは深い理解までできていないことによるつまりきだったのだと気付くことができました。また、振り返りなどを行う際に、子どもたちに分かったことを書くように促していましたが、それだけでなく、分からなかったことも書くことで自分がどこまで理解しているのかを把握するきっかけにもなるということを知り、今後の指導に生かしたいと思いました。

## 倉敷ふれあい教室めぐり

### ☆☆ 水島教室 ☆☆

☆ 和気あいあいとした  
ゆったりした雰囲気です...

倉敷ふれあい教室水島教室は、ライフパーク倉敷内にある倉敷教育センター事務室の隣にあります。福田公園の近くにあることから、公園の散策をしたり、ニュースポーツの用具を借りてきて楽しんだりすることもあります。施設内は空調も完備されており、過ごしやすく、恵まれた環境の中で活動することができます。教室目標は「一歩」です。日々一歩ずつ前向きに進んでほしいという思いをこめて教室に掲げています。



「なかよし活動」では、様々な活動に取り組んでいます。創作活動は、手芸・工作などをします。倉敷埋蔵文化財センターの先生には、土偶ランタンの作り方を教えていただきました。また、卓球、バドミントンなどのスポーツで汗を流しています。ボランティア活動として、ライフパーク倉敷周辺のごみ拾いをすることもあります。夏野菜や花を育てる栽培活動、水風船、昔遊び、調理実習、ギターなど、初めてのことにもチャレンジして楽しく活動しています。春のハイキングでは、種松山まで歩いてアスレチックをしました。近くの幼稚園との交流で、小さな子どもたちとのふれあいもしています。

【土偶ランタン作り】



【調理実習】

「スタディ」の時間には、自分のペースで各自の学習課題に取り組んでいます。自分の決めたペースで登室して、なかよく活動し、笑い声の絶えないゆったりした雰囲気の教室です。

そうだ！

教育センターの **教科書展示室**

に寄ってみよう！



**研究集録** を読みたい！

**教科書** を比べてみたい！

教育センター  
事務室の隣だよ！



### 展示内容

- 各発行者の教科用図書（教科書）
- 倉敷市内の小、中、特別支援学校の研究集録
- 研究団体の研究集録（岡山県や他市の教育センター等）
- 教育に関する雑誌・図書  
（「実践みんなの特別支援教育」「指導と評価」等）
- 研修講座での実践発表、作成した学習指導案等

☆ 最長1か月まで、貸出しが可能です。

※ 教科用図書、研究集録等は閲覧のみのものもあります。また、貸出しができない期間もあります。

☆ 開館時間は、月曜日～土曜日の9時から17時15分です。（日曜日と祝日は閉館日です。）

※ 月曜日（月曜日が祝日の場合は火曜日）はライフパーク倉敷の休館日ですが、教育センターは開館しています。入口の御案内をしますので、来られる方は事前に御連絡ください。

倉敷教育センター ☎ 086-454-0400

## 「☆本（ほしぼん）」「拡大教科書」を知っていますか？

特別支援学校では、小・中・高等学校と同じ教科書のほか、子どもの障がいの状態に合わせて作成された教科書などを使っています。文部科学省では知的障害者用に、通称「☆本（ほしぼん）」と呼ばれる著作教科書を作成しています。小学部用には「こくご」「さんすう」「おんがく」「せいかつ」、中学部用には「国語」「数学」「社会」「理科」「音楽」「職業・家庭」があります。また、「拡大教科書」は文部科学省の検定を経た教科書の文字や図形を拡大して複製したもので、視覚障害のある児童生徒が使用する教科書です。小中学校の通常学級や特別支援学級、特別支援学校において無償給与されています。両教科書とも倉敷教育センターで閲覧が可能です。



特別支援学級等の指導の参考にも！